

児童発達支援 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	重症心身障がい児デイサービス いろは		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 19日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日 ～ 2025年 11月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	●一人ひとりに寄り添った手厚い支援(イベント開催) マンツーマンに近い職員配置で、個々のレベルに合わせた支援をしている。また、年に1度、親御様も参加していただけるイベント等を開催している。	多職種と連携しながら他児との関わりを大切に、その子らしい未来が広がる支援を心掛けている。 イベントでは、お子様一人ひとりに対する職員の願いを共有し、半年以上前から職員間で何度も話し合いをしながら資料を作成する等、当日に向け事前準備を入念に行っている。	引き続き、多職種と連携しながら手厚い支援を心掛け、全てのお子様が多くのお子様の関われるよう環境を整えていく。 イベントでは職員やお子様、親御様等全ての方の想いを大切に記憶に残る良い思い出となるよう考案し、実施していく。
2	●生活空間の工夫 工作が得意な職員が多く、事業所内の天井飾りや壁面装飾に力を入れている為、室内でも季節感を感じられる環境作りが出来ている。	季節によって外に出ることが難しいお子様も季節や行事を感じられるよう、毎月事業所内の雰囲気を変えている。また、自力で動くことが難しくても視覚で楽しめる空間等を作り、お子様全員が楽しめる環境を整えている。	職員間でアイデアを出し合い、より季節感のある空間を目指す。
3	●活動(プログラム)の充実 創作活動や、音楽プログラム、運動プログラム、外出等、毎日様々な活動を実施している。	年に2回の個人懇談や保護者参観、保護者交流会で、親御様のニーズを聞き、ニーズに合わせた活動を実施している。また、事業所内だけでなく、同じ会社内の他事業所ともプログラム内容を共有し、立案・実施している。	より多くの親御様のニーズに合わせた活動を提供していく。また、事業所の中だけでなく、他事業所のお子様や地域のお子様と関わる事が出来る活動を立案していく。
4	●立地条件、環境設備が良い 利用していただいているお子様の多くが通う小牧特別支援学校から車で5分と近い為、移動時間が短く、事業所での活動時間を長く確保できる。また、学校は災害時の避難所でもある為、もしもの時にも安心出来る。 活動スペースが広く定員7名の為、幅広い年齢の多くのお子様にご利用いただける。	平日も活動時間が長く確保できる為、日頃から様々な活動に取り組んでいる。また、定期的な避難訓練にて小牧特別支援学校まで車で移動する訓練も実施している。	より多くの活動を提供し、様々な体験をすることで充実した時間を過ごせるようにしていく。また、災害時に、車での移動が困難な場合も想定し、徒歩での避難等の訓練も実施していく。
5	●様々な研修の実施(職員育成の強化)	研修委員を中心に、個別支援計画やガイドライン等、様々な研修を行っている。事例検討会では、全職員が進行役となり、進行者としてのスキルも上げられるように工夫している。また、研修日を複数に分け、支援や出勤日の関係で参加出来ない職員がいないようにしている。	定期的に職員と面談を行う等、各々の職員の希望を確認しながら、親御様やお子様、職員のニーズにあった研修や、支援の質が向上する研修を実施していく。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	●地域住民との関わり	時間の兼ね合いで、平日に公共施設を利用することが難しい。また、個人情報の兼ね合いもあり、交流が少ない。	可能な限り公共施設を利用し、地域の方との交流を増やしていく。
2	●個々に合わせた集団活動の提供	日常生活レベルの幅が広い為、個別活動が多くなってしまふ。	同じ活動の中でも一人ひとりに合った参加方法を工夫し、無理なく関われる環境を整えていく。また、お子様同士が関わり合い、自然と交流が生まれるような集団活動を大切にしていく。
3	●活動(プログラム)内容のマンネリ化	活動の種類は多いものの、似たような活動構成になってしまふ。また、お子様が安心して取り組める、慣れ親しんだ活動が多い為、その心地よさを大切にしたい気持ちから、新しいプログラムの導入に踏み出しにくい状況にもなっている。	既存プログラムに加えて、新しい活動内容を計画的に取り入れられるよう、職員間でアイデアを共有していく。また、お子様にとって無理なく参加出来る形で新しいプログラムを組み込み、楽しみながら新しい経験が積めるような工夫を行っている。
4	●自宅までの送迎時間中の支援	送迎車内で過ごす時間が長いお子様が退屈になってしまう。	車内でもお子様が充実できる活動(会話等)等のアイデアを出し合い、実施していく。